

れることになっていくということである。なお、これら日付の詳細の具体的なことは、さらに十月一日付の官報に発表されるのであるから、この報告が活字の形で読者の目にふれる以前に詳細がはつきりしているはずである。

中学校の学習指導要項改訂にもなる教育課程の改正における「保育」の扱い方について、私たちのとった対策とその運動の経過ならびにその成果を以上の通りであるが、私たちがとしては、私たちの幼児の幸せのために、そしてわが国の将来の幸せのためにこのことが小さくない貢献をするものであることを信じ、世の関係者のかたがたとともに心から喜びたいと思う。そして、それと同時にこの問題についてひじょうに骨折っていただいたかたがた、とくにその中心になっていただいた日本女子大学の児玉氏、お茶の水女子大学の松村氏、津守氏、さらに私たちのまわりにおいて他の面から力を添えて下さった日本女子大学の太田前学長、氏家氏、上村氏、日本女子大学およびお茶の水女子大学の児童学研究室のかたがた、両大学の付属中学校の関係の先生がたに厚い感謝をささげた。また、前にもふれた日本家政学会、全国家庭科教育協会などの団体および家庭科関係のいろいろのかたがたの御尽力があったために、この成果が得られたことを思い、これらのかたがたと御一緒に喜ぶとともに厚く感謝したいと思ふ。

(昭和三十三年九月四日記)

園長さんに望むもの

一、園長先生になって下さい

小学校の併設幼稚園ですと「校長先生」であっても、「園長先生」でないかたが多いのではないのでしょうか。「園長だが実は兼任で幼児のことはよく知らない」と、こんなことをよく耳にいたします。勿論御謙遜だと思っても、やはり本音かしら？と信じざるを得ないことがあります。

保育室に來られて絵を描いている子どもに、「木はそんな色かね。これ人間？手がないね」などと子どもの心を無視した質問をなさいます。

それどころか、一学期に一度すら保育室においてにならない、という園長先生もおられるとか。

小学校のことでお忙しい。でも「園長」と堂々名がついておられるのですもの、「幼児のことはよく知らぬ」でなく、知って欲しいと思います。良き園長先生でなくして、どうしてよき校長先生であられましょうか不可解です。正しく教育をお考えのかたなら必ず幼児教育をやっかい物にせず、深い関心と理解を寄せて下さると思うのですが、どうぞ園のため幼児のために「校長先生」

(小学校併設幼稚園の場合)

だけでなく「園長先生」にもなっていたきたいと望みます。

二、幼稚園の先生に厳しさを

何かにつけ小学校の先生には厳しく要求を持っていらしても、幼稚園の先生にはどうもある程度で妥協して下さい、大目にすまして下さってような気がいたしました。私はそのたびに不満に思ってしまうか考えました。そして幼稚園の先生が優しさという名にかくれて心に甘えを持っているからだと反省しました。つまり、要求にたち向かう意欲に欠けているということ。

研究討議会の時のあのおとなしい無反応さに似たいやらしさを持っていることを。あるいは美德はもう過去の物にして、厳しさを求められても甲斐のある抵抗力と積極性を優しさの上に持たねば私たちはいつまでも進歩しないし、高い要求を持っていただけないと思いました。

そういう反省を痛切に感じた私たちがどうぞ激しくもって厳しい目で見つめて下さって、あいま、安易という安住の地に行きやすい私たちを批判し御指導して下さい。どうぞお願いいたします。